

大相撲の歴史と深川④

深川地域と勧進相撲

江東区深川江戸資料館

現在、大相撲というと墨田区にある両国国技館を思い浮かべる人が多いと思います。しかし、江戸時代まで遡ってみると、大相撲の定場所が両国になる天保4年(1833)までは深川地域で多く開催されていました。また江戸^{かんじん}勧進相撲の再興の地でもあります。本号では、深川・本所地域の発展から勧進相撲興行が再興された深川地域を中心に、その理由と興行形態をみていきます。

1. 貞享期以前の深川地域

深川地域の歴史は、天正18年(1590)徳川家康が江戸へ入府し、江戸への流通を目的とした小名木川を開削したことに始まります。寛永6年(1629)には隅田川沿岸に深川^{りょうしまち}獵師町が造られ、深川地域は開拓されていきます。同18年(1641)には江戸で大火があり、日本橋方面の材木置き場が獵師町周辺に移転されます。「深川絵巻図」(万治元年～天和2年・1658～1682頃/館蔵)によると、小名木川以南、隅田川沿岸が半島状の土地となっており、材木置き場と海に囲まれていた土地で、富岡八幡宮より東部はまだ開発されておらず、ほとんど海で陸地化されていない様子が描かれています。

2. 深川地域と勧進相撲

江戸勧進相撲の初めは、寛永元年(1624)四谷塩町長善寺(通称、笹寺)境内^{あかししがのすけ}での明石志賀之助の晴天六日の興行と伝えられます。勧進相撲とは、寺社などの建立・修築資金を集めるために催す相撲興行のことです。そこでは勝敗等をめぐってしばしば喧嘩^{けんか}口論が起り、幕府は慶安元年(1648)より繰り返し禁止令を出しました。

ところが、貞享元年(1684)富岡八幡宮(深川八幡、別当の永代寺)において再び勧進相撲が許可されました。それまで禁止されていた勧進相撲がこのとき許可された理由は、当時の社会状況から次の3つの要因が考えられます。



歌川豊春画「浮絵和国景跡 江戸深川八幡之図」
1770年代(東京芸術大学大学美術館蔵)。富岡八幡宮で勧進相撲を行っていた当時の様子がかがえま。

1つは、深川地域の振興策との関わりです。明暦の大火(明暦3年・1657)によって江戸市中の大半が焼失し、幕府は新しい町作りとして、隅田川以東の深川・本所地域の開発に着手します。それは、武家屋敷の移転や火除け地や広小路と呼ばれるあき地の造成、道路や河川の整備、架橋などを進めるものでした。勧進相撲が再興された貞享～元禄期(1684～1704)は、深川・本所地域がこのように江戸市中に組み込まれていく時期にあたります。勧進相撲が新市街地となった当該地域の振興策の一環であったからこそ、相撲興行が許可されたと考えられます。

2つ目は、江戸の治安対策です。勧進相撲が禁止された期間、相撲を生業とする職業集団は生活に困窮し、喧嘩騒動を起こす者がしばしばありました。そこで、彼らに興行の場を与えて相撲渡世を成り立たせたと考えられます。

3つ目は、富岡八幡宮の社殿復興です。勧進相撲が再興される前の天和2年(1682)に社殿を火災で焼失しており、「勧進」の名目の通り、社殿の復興を目的としていたと考えられます。

3. 深川地域での興行

江戸における勧進相撲は貞享元年に再興され、深川地域を中心に本所回向院や蔵前八幡、芝神明社などで行われました。

右の表は、『史料集成江戸時代相撲名鑑』を参考に、勸進相撲が再開された貞享元年から深川地域で最後に行われた享和元年（1801）までの興行の中から深川・本所地域の興行を抜き出したものです。

まず、この間の興行形態をみてみると、勸進相撲が再開された貞享～宝永期（1684～1711）は、興行は恒常化しておらず不定期におこなわれていました。途中、幕府が新規の勸進全般を不許可としていたため勸進相撲も低迷しますが、延享元年（1744）には、四季に1度ずつ興行されるようになりました。また、この頃になると本来の名目である勸進は形式化し、相撲渡世のための興行という性格が強くなっていきます。そして、江戸において興行体制が整えられつつあった同時期は、京都・大阪でも勸進相撲が徐々に定期的に開催されるようになり、延享～寛延期（1744～1751）には三都で大規模な興行が開催される四季勸進相撲の体制が整いました。

興行場所は、当初は不定期で、深川や本所をはじめ、浅草蔵前八幡や芝神明社などで行われていました。貞享～元禄期の具体的な興行地を見てみると、全体で58回興行されたなか、深川永代寺では11回、本所一ツ目（深川八幡御旅所）で4回、深川・本所地域で開催されました。他寺社では固定化されていなかった興行地が、深川・本所地域では永代寺や本所一ツ目に限られていたのは、新しい造成地としての深川・本所地域の性格が関係していたのです。

その後も富岡八幡宮では定期的に興行が行われ、のちの代表的興行地となる回向院よりも多く行われました。回向院では、明和5年（1768）に初めて大規模な相撲興行が開催されます。これは、本所の開発が終わり、土地も整ってきた頃です。そして両国が江戸の盛り場として成長を遂げた明和～天明期（1764～1789）には安定した興行が開催され、以降、回向院での興行が徐々に増え、天保4年からは江戸の定場所となります。

富岡八幡宮、もとい深川地域は、当時江戸の庶民にも大変人気のあった勸進相撲をはじめ、成田山新勝寺など名利の出開帳や操り芝居を行うことで、新たな市街地としての賑わいを獲得していきました。当初、勸進相撲は深川地域を拠点として行われていましたが、江戸時代の終わりころには江戸を代表する盛り場となった本所地域の成立や、興行の安定化により回向院へと移っていきました。

年	興行場所（開催月）	
貞享 (1684～)	1 深川永代寺(7月)	
元禄 (1688～ 1704)	1 深川永代寺(4月)、本所業平天神(6月)	
	2 深川永代寺(6月)	
	3 本所多田薬師(6月)、深川永代寺(8月)	
	5 本所一ツ目借り屋(6月)、本所亀井戸(7月)	
	6 深川永代寺(9月)	
	7 本所一ツ目借り屋(8月)	
	8 深川永代寺(5月)	
	9 深川永代寺(5月)、本所三ツ目借り屋(8月)	
	10 深川永代寺(5月)	
	11 深川万年町(5月)	
	12 本所一ツ目借り屋(6月)	
	15 深川永代寺(6月)、深川八幡社(7月)	
	16 本所一ツ目借り屋(5月)、深川永代寺(8月)	
	宝永 (1704～ 1711)	1 本所一ツ目借り屋(10月)
		2 深川八幡社(3月、4月)、深川三十三間堂(8月)
		3 本所一ツ目借り屋(6月)
4 深川永代寺(7月)		
5 本所一ツ目借り屋(5月)		
6 深川三十三間堂(8月)、深川永代寺(9月)		
7 本所一ツ目稲荷(6月)、深川永代寺(9月)		
正徳 (1711～ 1716)	2 本所一ツ目稲荷(5月)	
	3 本所一ツ目稲荷(6月)	
	2 本所一ツ目稲荷(8月)	
享保 (1716～ 1736)	7 深川八幡社(6月)	
	9 深川八幡社(6月)	
	8 深川八幡社(3月、10月)	
宝暦 (1751～ 1764)	9 深川八幡社(3月)	
	12 深川八幡社(3月)	
	明和 (1764～ 1772)	1 深川八幡社(10月)
2 深川八幡社(10月)		
3 深川八幡社(10月)		
4 深川八幡(3月)、深川八幡社(10月)		
5 本所回向院(9月)		
6 深川八幡社(4月)、深川八幡宮(10月)		
8 深川三十三間堂(3月)、深川八幡(10月)		
9 本所回向院(11月)		
安永 (1772～ 1781)		2 深川八幡宮(閏3月)、本所一ツ目八幡(10月)
	3 深川八幡宮(4月、10月)	
	4 深川八幡宮(3月、10月)	
	5 深川八幡宮(10月)	
	6 深川八幡宮(4月、10月)	
	7 深川八幡宮(3月、11月)、深川霊運院(夏)	
	8 深川御船蔵八幡(3月)、深川八幡宮(10月)	
	9 深川三十三間堂(3月)	
	天明 (1781～ 1789)	1 本所回向院(10月)
2 深川八幡宮(10月)		
3 深川八幡宮(3月)、本所回向院(11月)		
4 本所回向院(3月、11月)		
8 本所回向院(4月、11月)		
寛政 (1789～ 1801)	1 深川八幡宮(11月)	
	2 深川八幡宮(3月)、本所回向院(11月)	
	3 本所回向院(4月、11月)	
	5 本所回向院(10月)	
	6 深川八幡宮(3月)、本所回向院(11月)	
	7 本所回向院(3月)	
	8 本所回向院(3月、10月)	
	10 本所回向院(10月)	
	11 本所回向院(2月、11月)	
	享和 (1801～)	1 深川八幡宮(3月)、本所回向院(11月)

深川・本所地域の勸進相撲一覧
(深川永代寺・深川八幡は富岡八幡宮と同じ)

(主な参考文献)
 酒井忠正『日本相撲史』上巻(大日本相撲協会/1956)
 竹内誠「近世前期における江戸の勸進相撲」(『東京学芸大学紀要』第3部門社会科学第40集/1988)
 土屋喜敬「近世後期の相撲興行と両国地域」(『両国地域の歴史と文化』東京都江戸東京博物館調査報告書第24集/2011)
 飯田昭一編『史料集成江戸時代相撲名鑑』(日外アソシエーツ/2001)